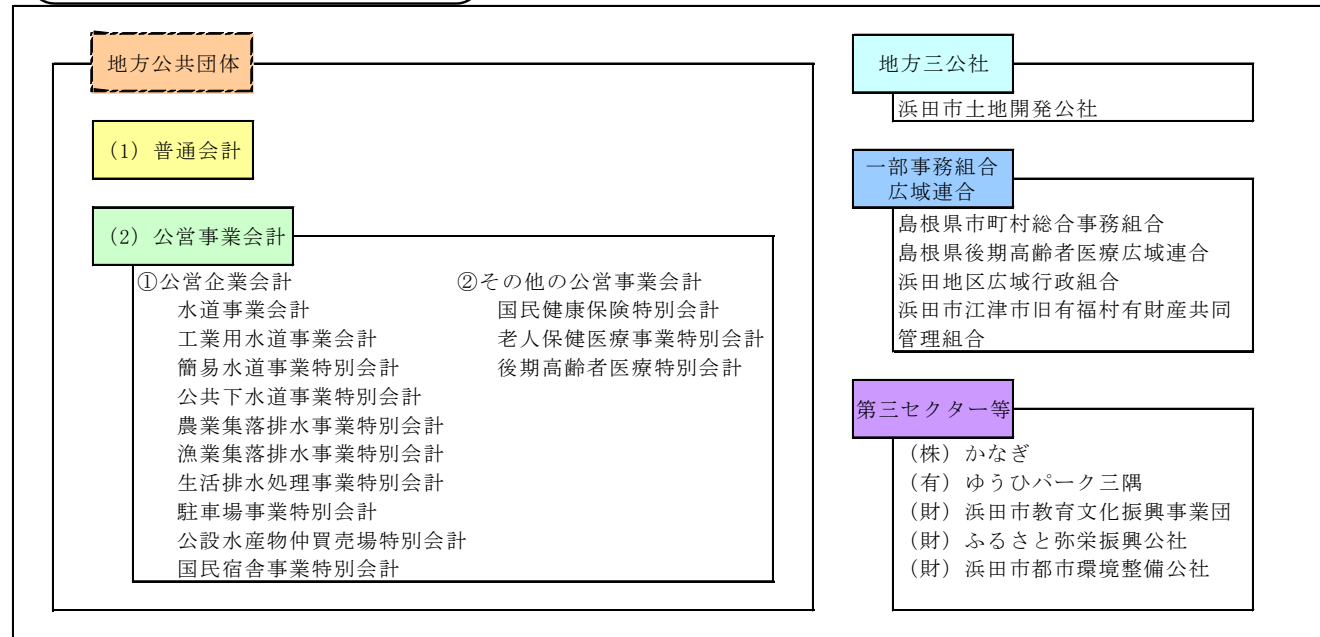


連結財務書類とは

連結事務書類とは、普通会計のほかに、浜田市を構成する企業会計、その他の特別会計や浜田市と連携協力して行政サービスを実施する関係団体・法人を一つの行政サービス実施主体とみなして作成する財務書類のことで、

浜田市の連結の範囲



(1) 連結貸借対照表

浜田市の平成22年度の連結貸借対照表は、次のとおりです。普通会計単体に対して、資産が607億円増加し、2,315億円となります。負債は294億円増加し、861億円となります。純資産は313億円増加し、1,454億円となります。

借方	貸方
<資産の部>	<負債の部>
浜田市と連結対象団体が所有し、行政サービス提供に利用される財産、売却可能な財産及び将来回収する資産など (内訳)	将来世代の負担で返済する債務 地方債や将来支払われる職員の退職金など
公共資産 道路・公園・庁舎など (水道事業の管渠などを合算)	
2,087億円	負債合計 861億円
投資等 基金・貸付金・出資金など	<純資産の部>
135億円	国または県の負担及び現世代・過去世代が既に負担した分
流動資産 現金・財政調整基金など うち資金 72.4億円	
93億円	純資産合計 1,454億円
資産合計 2,315億円	負債及び純資産合計 2,315億円

(4) 連結資金収支計算書

連結資金収支計算書は、次のとおりです。
普通会計単体に対比、経常的収支額が9.5億円増加し、公共資産整備収支額が2.6億円減少し、投資・財務的収支額が9.5億円減少します。
期末資金残高については、67.3億円増加し、72.4億円になります。なお、連結財務書類の資金とは、普通会計における現金預金(流動資産)です。

期首(平成21年度末) 資金残高 74.5億円

経常的収支	93.8億円
公共資産整備収支	△19.0億円
投資・財務的収支	△76.7億円
繰上充用金増減額他	△0.2億円

期末(平成22年度末) 資金残高 72.4億円

(3) 連結純資産変動計算書

連結純資産変動計算書は、次のとおりです。
普通会計単体に対して、財源の調達は82億円増加します。
純資産残高は、313億円増加して1,454億円になります。

期首(平成21年度末) 純資産残高 1,443億円

当期変動高	11億円
(内訳)	
純経常行政コスト	△373億円
財源の調達	374億円
(うち地方税)	76億円
(うち地方交付税)	122億円
(うち国県補助金)	155億円
その他	10億円

期末(平成22年度末) 純資産残高 1,454億円

(2) 連結行政コスト計算書

連結行政コスト計算書は、次のとおりです。
普通会計単体に対して、「人にかかるコスト」は12億円、「物にかかるコスト」は37億円、「移転支出的コスト」は167億円、「その他のコスト」は18億円それぞれ増加した結果、経常行政コストは234億円増加し、532億円になります。
一方で、経常収益は139億円増加し、159億円になります。その結果、純経常行政コストは95億円増加し、373億円になります。

経常行政コスト(A) 532億円

- (内訳)
- ・人にかかるコスト 71億円
職員の給与・退職手当など
 - ・物にかかるコスト 136億円
光熱水費・修繕費・減価償却費など
 - ・移転支出的コスト 299億円
社会保障給付・各種団体への補助金・他会計への繰出金など
 - ・その他のコスト 26億円
地方債の利子など

経常行政収益(B) 159億円

施設の使用料や手数料など、行政サービス提供の対価として得られた財源です。

純経常行政コスト 373億円

(A) - (B)
経常行政コストから経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。